

00	09	03	002	永年保存	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	事務局長	次長	主査	主査	担当	文書取扱主任							

第2回 市立病院建替計画等調査特別委員会 会議録

開催年月日	平成19年6月21日（木曜日）	開会：13時30分	閉会：16時30分	
開催場所	第一委員会室			
出席委員	井上、山木、渡辺、酒井、本間、山口、荒木、堀、田村、 議長、委員外議員～窪之内、水口	事務局	飯沼事務局長	
欠席委員	なし		中川副主幹	
説明員	別紙のとおり		對馬主任主事	
議件	別紙のとおり			
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について			
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。			
	(1) 前回要求資料説明等について			
	(2) 耐震診断結果等の概要について			
	(3) 患者アンケート結果及び障害者団体連絡協議会との意見交換、現病院施設に 対する要望・意見等について			
	(4) 広報たきかわ7月号折り込みリーフレットについて			
	(5) その他			
	2 視察について			
	基本設計に反映するための視察は日程的に難しいので、実施設計に入る段階で必要が あれば視察をすることとした。			
	3 その他について			
	なし			
	4 次回委員会の日程について			
	正副委員長に一任することとした。			
	○休憩～現病院施設の現地視察を行った。			
	○視察終了後、市立病院玄関にて委員会を閉会した。			
	上記記載のとおり相違ない。 市立病院建替計画等調査特別委員長 井上正雄 印			

平成19年6月20日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成19年6月15日付け滝議第38号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

理事	谷田部 篤
市立病院事務部長	東 照 明
市立病院事務部事務課長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部事務課改築準備室長	田 中 武 雄
市立病院事務部事務課改築準備室副主幹	国 嶋 隆 雄
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	佐 藤 智 人

(総務部総務課総務グループ)

第2回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H19. 6. 21 (木) 13:30～
第 一 委 員 会 室

○開 会

○委員動静

1. 調査事項について

- (1) 前回要求資料説明等について (資料)
- (2) 耐震診断結果等の概要について (資料)
- (3) 患者アンケート結果及び障害者団体連絡協議会との意見交換、
現病院施設に対する要望・意見等について (資料)
- (4) 広報たきかわ7月号折り込みリーフレットについて (資料)
- (5) その他 (資料)

2. 視察について

3. その他について

4. 次回委員会の日程について

○休憩～現病院施設の現地視察

○閉 会

第2回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H19.6.21(木)13:30～

第一委員会室

開 会 13:30

委員動静報告

委員長

全員出席。議長出席。委員外議員～窪之内、水口。
空知新聞社、北海道新聞の傍聴を許可。

1 所管からの報告事項について

(1) 前回要求資料説明等について

東部長

前回の答弁で誤りがあったので訂正させていただきおわびする。本間委員から引越し費用の5,000万円はどの科目に入っているのかとの質疑があった。前回は経費に入っていると答弁したが、計画書の5ページ、平成22年度特別損失11億8,652万2,000円の中に含まれている。したがって現金支出を伴わないものは5,000万円を除いた11億3,652万2,000円である。申しわけないが、訂正をさせていただく。

鈴木課長
委員長

(別紙資料に基づき説明する。)

(別紙資料に基づき説明する。)

説明が終わった。きょうの委員会の進め方についてだが、2時間程度委員会室で行い、その後3時半ころから病院視察という時間配分を考えている。協力願う。質疑はあるか。

本 間

5,000万円について再度確認したい。5ページの特別損失はほとんどが固定資産の除却損ととらえている。そういうものの中に、現状の支出経費が入るはずがないと思うが、いかがか。

東部長

経理担当に調べていただいたところ、引越し分については特別損失に計上するというのでそこに5,000万円を入れ、残りの11億3,600万円が除却損という説明を受けた。正式な経理となれば再度精査をしていきたいと思うが、担当者が調べた限りでは特別損失に入る科目であり、そこに載せさせていただいた。

本 間

そうすると、除却損の中にはほかのものも入っているのではないかと思われる。特別損失、除却損を出したときにそれに伴う借金がないのかということも問題になると思う。その辺について伺いたい。また特別損失の中でほかになにか含まれているものがあるのか。

東部長

計画書の6ページを見ていただきたい。歳出、企業債償還金の22年度、7億5,100万円となっている。21年度の2億4,500万円と比べると非常に突出している。当然今指摘のあったように、除却してものがなくなるので未償還額はここで繰上償還する。繰上償還額は4億6,180万7,000円を計上している。特別損失には、除却損11億3,652万2,000円と引越し費用の5,000万円を計上している。指摘のあった点は再度精査をしたいと思う。

委員長
荒 木

他に質疑はあるか。

① 19年度外来延患者数の月別が出ているが、4月は20日、5月は21日で割り返せば1日平均が出るということでよいか。

② 砂川市立病院との連携について、新たな、未来的な、先進的なといった一言で片づけられてしまうのは大まか過ぎる。この連携とは、両病院を建て、さらにそれぞれがコスト削減できるような新たな方策という意味でとらえている方が多い。しかし、中空知保健医療福祉推進協議会でまとめられたもので、

東 部 長

いわゆる紹介や病病連携、産婦人科医師の派遣といった今までどおりの連携だととらえざるを得ない。もう一度確認をさせていただきたい。

① 4月については土、日、祝日を除いた20日。5月については、21日で割り返せば1日当たりが出る。

② 砂川市立病院との連携だが、新たな未来的連携について具体的な話にはなっていない。

委 員 長
本 間

他に質疑はあるか。

① 4月、5月の外来延患者数が減っている関係で伺いたい。いろいろな要因があると言っていたが、個人病院が開業したことによる影響についての考え方を聞かせていただきたい。

② 単純に19年度の月平均を掛け算すると、22万4,784人になる。その数字だと外来の計画には至らない。今後もこういった傾向が続いた場合は、数字の予測を考え直さなければならないと考えられる。その辺の見解について伺う。

東 部 長

① 人数からすれば、かなり減っているが、その減った要因はほとんどが耳鼻咽喉科である。常勤医がいなくなり、週2日での非常勤になってしまったということである。もし常勤医が確保されていれば、これほどまで落ち込まなかったと思う。市内で診療所が開院されれば、それに比例して患者がふえるわけではないので、当然その影響はあると考えている。

② 計画の見直し、見方の部分についてだが、個々の科の患者数、診療単価の計画等は、そのやり方によって何とでも変わってくると思う。ただ問題は、最終的な診療収入がどうなのかという点だと考えている。例えば、耳鼻咽喉科は確かに減ったが、診療単価の少ない患者が減ったので総体的な診療単価は上がった。外来収益としては落ちていない。そういったところを見ていく必要があると思う。したがって医師の常勤医をしっかりと確保できるかどうか大きな要因と言わざるを得ないと思う。先ほども言ったが、耳鼻咽喉科の医師が非常勤ではなく常勤であればこれほど落ち込まなかったと考えている。潜在的患者がどんどん減るのであれば、もっと抜本的な修正を考えなければならないが、将来の予測等からすると入院患者は減らない。市内の開業、医師の確保等を含めて考えると、患者に来てもらえる病院になり得るのかどうか大きな要素だと思っている。商売をされる場合も市場調査をして、どの程度のパイがあり、その中で自分はどうすればどのくらいやっていけるのか予測を立てると思う。もちろんほかとの競争についても、どのくらい努力をして確保していこうかといったことも考えると思う。この計画の数字を過大と見るのか、過少と見るのかはいろいろあるが、我々としては実績をベースに進めている。過大ではなく、十分努力でき可能性がある数字と考えている。

本 間

外来収益の予算についてだが、18年度の決算見込みと19年度の予算を比べると、1億円以上ふやすことになっている。7ページの延患者数も1,600人くらいふえる予算となっている。実績としての数字は4月と5月しか出ていないが、それからすると3,000人以上少なくなる可能性がある。外来収益にしても多分、昨年と比べて若干伸びてはいるが、19年度予算に達するかどうかは疑問である。数字というのは努力や戦略によって変わるが、そうしたことも含めていかに安全に計画を立てるかということが大事なときである。4月と5月の少ないサンプルではあるが、非常に意味するところが大きいのではないかと思う。そういったことも考えていただきながら組み立てをしていただきたい。何か意見があれば聞かせていただきたい。

東 部 長

4月、5月の実績を見ると確かに大丈夫なのかと感じられると思うが、季節変動というものもある。過去もそうだが、どうしても春から夏にかけては患者数が減り、冬期間になると患者がふえ、収益もふえる傾向にある。先ほど医師数のところでも話したが、予定としては35人の正規職員の医師を見込んでおり、医師が減れば直接的な影響は大きい。今年は耳鼻咽喉科、内科の部分でマイナス要因があったので、その影響だと思う。逆に言えば、医師が確保できていればもっとよかったと思う。季節的な要因と中長期的医師確保の動向を合わせて見ていきたいと思うが、指摘のあったように過大に見て収支を悪化させることのないように最善の努力をしていきたいと思う。

委 員 長
酒 井

他に質疑はあるか。

① 職種別職員数計画についてだが、表を見る限り実績をそのまま引き継いでいるように見える。医師数については、研修医や嘱託を含まず現在32人いるが、耳鼻科の医師が確保できない中で、見込みがないのに35人という数字を出せないと思う。こうしたことについて現在どのように考えているのか。

② 看護師数については、7対1看護において最大20人をふやす見方をされているが、この充足の仕方について伺う。単に募集をかけて来るかどうかかわからないということではなく、しっかりと看護師確保をされているとは思いますが、近隣でも開院し募集をするので、そうしたことも絡めて充足する計画をどのように考えているのか伺う。

東 部 長

① 医師の確保については全国的に大問題であり、ここ数年ひどい状況である。ただ道内3医科大学の初級研修医は減ってきているが、その人数以上に19年度後期研修の医師が大学へ行っている。つまり初級研修2年間は民間や公立病院で研修をして、後期研修は大学病院に戻ったと言えるのではないかと思います。今後の推移を見ていかなければならないが、もし後期研修で医師が大学に戻る傾向があるのであれば、大学からの医師派遣に依存している公立病院等は、今後医師確保が少しでも改善されるのではないかと期待をしている。35人という数字は実態と相違はあるが、医局、民間のあっせん業者、公的機関等への依頼や折衝をしているところである。直ちに35人にならないと思うが、努力目標として取り組んでいる。

② 7対1看護については、1年での達成は無理だと思っており、2カ年計画で考えている。主な部分としては、自前で高等看護学院を持っているので、そこからの充足である。また定期的に募集をしているが、追加募集と合わせてこの病院に残ってもらえるようないい職場にしていくことが、最終的に看護師の確保につながると考えている。これに関しては、看護部と連携しながら計画的に進めており、この近辺の看護師養成学校についても募集説明に行っている。最大限の努力をして、遅くとも来年からは7対1看護を確保していきたいと考えている。

酒 井

先ほども荒木委員、本間委員から医師確保と診療報酬請求額の部分で質疑があったが、確保できるかどうかは病院建設において核になる部分である。例えば、耳鼻科の医師をこのまま確保できないのであれば、その数字で計画を立てていかなければ当然計画を下回ることになる。部長からは確保できるように努力している、後期研修の医師が期待できるなどと言っていたが、実際のところ努力や期待でこれからの計画を立てるものではないと思う。従前から言っているとおり病院建てかえは賛成だが、将来へ禍根を残すのであれば、当然反対するのが私の立場である。わずか2カ月間の実績数ではあるが、計画を下回る数字が

	出ている以上、これを加味した計画が出されなければ非常に危険だと思う。医師数についても現在 32 人の医師で、さらに 3 人確保できる見込みを出しているのも危険である。留萌や深川の例を出すまでもなく、医師確保できないことが、そのまま病院経営に直結してくることからしても、実績を加味しながら基本計画の数字を出す必要があると思うが、いかがか。
東 部 長	医師の部分が診療収入に直結するのは当然のことである。ただ医師の数に比例して診療収入がふえたり減ったりするものではない。例えば、今まで 2 人だった医師が 3 人になるので、診療収入も 1.5 倍になるということではない。逆に 3 人が 2 人になったので収入が 3 分の 1 減るということにもならない。医師の数が少なければ 1 人当たりの診療収入が多いというのが実態である。指摘のように医師確保については、はっきり確実に確保できるとは言い切れない。そういう状況だと言わざるを得ない。では、この計画をどこの段階でどのように見るべきなのか。それは短絡的な視点より少し長めに物事を考えないと逆に誤る部分もあるのではないかと思っている。季節的な要因やこれからの医師の動きなどを見ても多分ここ数年が一番悪い状態だと思っており、私どもは最大限の努力をしていきたいと考えている。これから実施設計、着工までいろいろな回復しがたい問題が出てきたときには、また考えていかなければならないと思うが、現時点ではもう少し全体を見極めながら進めていく必要があるのではないかと思っている。実績の数字をベースに見ても何とかなる数字であり、課題ではないと思っている。
委 員 長	他に質疑はあるか。(なし) (1)について報告済みとする。(2)を説明願う。 (2)耐震診断結果等の概要について
国嶋副主幹	(別紙資料に基づき説明する。)
委 員 長	説明が終わった。質疑はあるか。
酒 井	建設費の関係だが、修繕に必要なのは 27 億円、L C A 指針の推定によれば 31 億 8,000 万円かかり、75%以上なので建てかえが必要だという判断根拠となっていた。現在の建てかえ計画では、74 億 1,000 万円という大きな違いがあるが、現在の建てかえ計画を L C A 指針で見ればどのような数字になるのかわからない。若干説明願う。
国嶋副主幹	現在の建物を新しい建物の規模で算定するとすれば、設備等の詳細な計算が必要になると思う。単純に考えると現在の病院施設が約 1 万 5,000 平方メートル、新病院が 2 万 4,500 平方メートルなので、その倍率分が最低基準になる。設備、医療機器、机、いす等が入っていないので、それにプラスすることになる。またこの L C A 指針の詳細算定については全国統一の基準なので、一般的に北海道の施設については暖房等の関係で割り増しになる。
酒 井	単純に 1.6 を掛ければ 50 億 8,800 万円になり、84%という数字にはならないと思う。もう少し詳しく説明願う。
東 部 長	あくまでも今と同じ建物を再建した場合、つまり最新の外断熱や断熱サッシで断熱性能の高いものをつくるのが新病院の計画だが、今のように一重のサッシなどで病院を建てた場合は 31 億円ということである。新病院とは設備も違われ、ほかの部分もいろいろと違ってくる。そういう意味では単価も全く違うと思う。
委 員 長	他に質疑はあるか。
渡 辺	市民が驚く数値ということで病院側から数値発表がなかった。0.81 がそれに該

	当すると思われるが、そうとらえてよいか。次回の通告質問の内容に関係するので伺いたい。簡単に市民にわかる数値をと通告してあるので、どういう数値を発表するのかについて説明願う。
東 部 長	8 ページ、診断者の所見を見ていただきたい。特に I 棟、H 棟は震度 5 強の地震が来た場合、最下階が倒壊する恐れが高く、人命が失われる可能性が極めて高いため、詳細な診断を早急に行い、安全性を確認する必要がある。B 棟、G 棟、精神病棟は震度 6 強の地震が来た場合、倒壊する恐れがあり、できるだけ早急に診断する必要があると診断された。この辺が一番わかりやすいのではないかと思う。通告にある一昨年の質問等について私も調べたが、見当たらなかった。もし本会議で質問ということであれば、その場で答弁させていただく。では本会議当日に質問させていただく。
渡 辺 委 員 長	他に質疑はあるか。(なし) (2)について報告済みとする。(3)を説明願う。 (3) 患者アンケート結果及び障害者団体連絡協議会との意見交換、現病院施設に対する要望・意見等について
国嶋副主幹 委 員 長	(別紙資料に基づき説明する。) 説明が終わった。質疑はあるか。(なし) (3)について報告済みとする。(4)を説明願う。 (4) 広報たきかわ 7 月号折り込みリーフレットについて
国嶋副主幹 東 部 長 委 員 長	(別紙資料に基づき説明する。) (別紙資料に基づき説明する。) 説明が終わった。質疑はあるか。(なし) (4)について報告済みとする。(5)を説明願う。 (5) その他
東 部 長 委 員 長	(別紙資料に基づき説明する。) 説明が終わった。山形県置賜地域には前々期の厚生常任委員会が視察している。その資料が必要であれば、議会事務局で見ることができる。 質疑はあるか。(なし) (5)について報告済みとする。
委 員 長	2 視察について 視察についてはいろいろと意見があり、正副委員長で整理した。今の流れからすると基本設計が 8 月、次の段階の実施設計が 9 月議会に提案されることになると思う。7 月にはシンポジウム、また 5 会場で懇談会を行うなどいろいろと日程的に詰まっている。基本設計に反映するための視察は難しい。時期的に 10 月、11 月くらいになると思うが、実施設計に入る段階で必要があれば適当な病院を視察してはどうか。(よし) ほかに何かあるか。(なし)
委 員 長	3 その他について 何かあるか。(なし)
委 員 長	4 次回委員会の日程について 正副委員長一任とすることでもいいか。(よし) ここで休憩をして現病院施設の現地視察をする。
	休 憩 15 : 08
	再 開 16 : 29
委 員 長	休憩前に引き続き委員会を再開する。

以上で第2回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉 会 16:30